

「誰か × 誰か」「誰か × 何か」の組み合わせが面白い。

ラクガキ × 教科書

『ラクガキ・マスター  
描くことが楽しくなる絵のキホン』  
奇藤 文平/筆 美術出版社

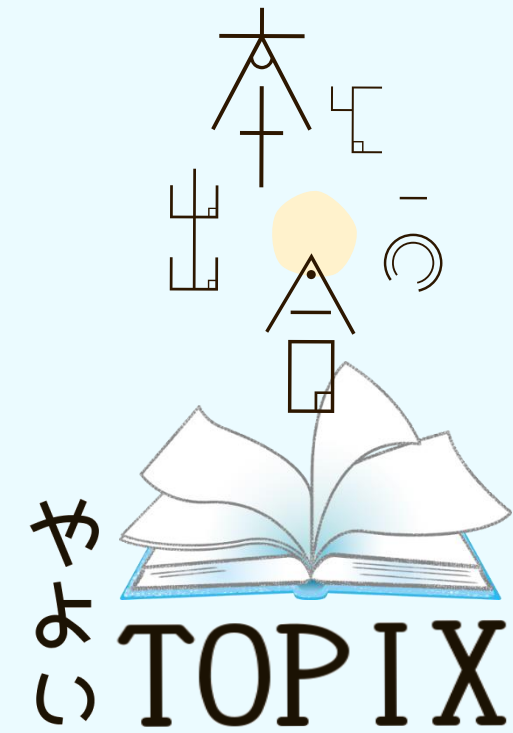
学生の頃、教科書のあちこちにラクガキしていたことを思い出す本書は、なんとラクガキの「教科書」です。ラクガキなので当然本格的な道具はいりません。必要なものはペンと紙の余白だけです。記号で描く魚、犬の尻尾で描ける樹、表情だけではなく体の動きで感情を表現する人間など、様々なラクガキの描き方が簡単に分かりやすく紹介されています。読むと思わずペンを取りたくてしてしまうので、そばに紙を用意して読んでみてください。(生盛)



館長が紹介する  
「印象に残った1文」とは？



『あだち工場男子』  
小早川 真樹/編集 しまや出版



もしかしたら、既にご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。今回紹介するのは、足立区の中小製造業で働く男性を取材した写真集です。さわやかな笑顔と真剣なまなざし。何かに打ち込んでいる人の姿は、こんなにもかっこいいのか、と改めて教えられる1冊でした。加えて、私と同年代の方や、年下の方たちが真摯に仕事をしている姿を見て、私も背筋が伸びる思いでした。私が住んでいる場所のすぐそばで、今日も彼らが働いている。たったそれだけのことで、こんなにも元気づけられるのが不思議です。(丸山)

あだち再生館からのおすすめ

「避難所にテント村」という選択肢

海外からは「難民キャンプ」という大規模なテント村の様子が伝えられてきますが「日本の避難所は、ソマリア難民キャンプにも劣る」と言われたら驚きです。この本は登山家で環境活動家の野口健が熊本地震の際、避難所として日本初のテント村を開設した記録です。多くの支援を背に様々な問題を乗り越え、陸上競技場に150以上のテントを設営・運営し、最後に被災者や運営側からも感謝される活動は私達に「生きのびる」ことや、そのための新たな避難所の選択肢を提案しています。あだち再生館の図書コーナーに置いておりますので、ぜひどうぞ。



『震災が起きた後で死なないために』  
野口 健/著 PHP 研究所



「印刷は紙にインキを載せるだけでなく、人の想いに触れられる仕事なんです」

やよい図書館のマスコットキャラクター「にゃよい」のことは、皆さんもうご存知ですよね？今回は、そんな「にゃよい」をモチーフにしてみました。

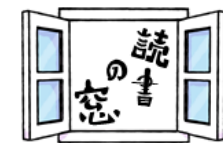


図書館職員がやってみました！

皆さんのお家に、招き猫はありますか？やよい図書館には日本招猫倶楽部が編集した『招き猫百科』という本があり、招き猫の歴史や変遷を知ることができます。また、この本を見ると招き猫が様々な材質から作られていることがわかります。定番はやはり焼き物ですが、それ以外にもセルロイドや張り子、土人形などバリエーションはとっても豊富。そこで、今回は一番手軽そうな張り子に挑戦！しかし、実際には和紙を何重にも貼って乾かさなければいけなかったりと、型からうまくはがれなかったりと、いろいろ手間のかかるトライでした。苦勞した分、たくさん福を招いてくれると嬉しいな、と思います。(丸山)

記念日から見つける、とっておきの1冊。

8月30日は「冒険家の日」。これは1965年に同志社大学の遠征隊が世界初となるアマゾン川の源流からのボート下りに成功し、1989年に堀江謙一が小型ヨットで太平洋の単独往復を達成した日にちなんでいます。



こんな本もありますよ

『新版 剣岳 点の記』  
新田 次郎/原作 文藝春秋

『シャクルトンの大漂流』  
ウィリアム・グリル/作 岩波書店

クイズにこたえて、  
図書館でプレゼントをもらおう。

もんだい：にゃよいのともだち、ペンギンの〇〇さん

- ① ぎん ② ほん ③ ペン

こたえ：

クイズは今月号で終了となります。  
今までありがとうございました。

Vol.15



『招き猫百科』  
荒川 千尋/文 インプレス